



小江地区の紹介

元気で永生き

第二寿会
会長 伊藤 昭一

老人会の会員が年々減少している中で、会員を増やすためには何をしたら良いのか、それには健康で楽しくスポーツと考え、ダーツを始めました。

ダーツの楽しさについて私なりにまとめました。

近年ダーツの愛好者が増えてきましたが、まだダーツに対する理解が少なく、老人会でも実際にダーツクラブの活動を実践しているのは2、3の老人会にとどまっているのが現状です。これを機会に、私どものクラブを参考に多くのダーツクラブの出来る場になればと思います。ダーツの最大の魅力は、なんと言っても性別や年齢に関係なく、誰でも楽しめることが出来るという点にあります。精神力80%・技術20%と言われるほどメンタルなスポーツですから、難しい技術の習得など必要ありません。日々楽しく、プレーしているうちに自然に腕前が上達していくのがわかってきます。



形原地区の紹介

形原長寿会
会長 市川 三之

現在の会員数は776名で、市内でも一番の大所帯で、年中行事としては、会員の意見を取り入れ、健康に関する体操や保健士の話し、包括支援センターの話しなどの学習会、またや会員相互の交流を深めるために親睦旅行など多くの行事を開催しております。高齢者教室では毎月1回、公民館に於いて、公民館とタイアップして、市内施設の見学や防災、交通安全の話し、落語・音



ところで私ども小江寿会のクラブ活動については、小江を基盤とした寿会のメンバーで毎月第2、第4の土曜日、小江公民館にて19時から21時まで行っています。現在はダーツクラブ会長は市川貞夫氏で会員数は男女20名で活動しています。会員同士で懇親と活動の場となっています。

会員の青柳實さんが吹き矢の蒲郡支部長を兼ねてダーツと同じように指導しています。ダーツと関係の深い吹き矢ですが、的までの距離は違いますが、吹き矢の場合は腹式で集中して行い、肺に活力を与え健康に良いとされています。

最後にダーツクラブの魅力については、何と言っても投げる距離が、実際には2メートル余りです、それがうまくいかで皆さんが一喜一憂して会員の皆さんが和気あいあいと楽しんでます。

楽を聴く会、講師を招いて生涯学習等を開催し、また健康スポーツに関しては、グランドゴルフやスポーツ大会にも積極的に参加し、高齢者スポーツ大会では昨年は総合優勝、今季は春季大会優勝するなど活躍しております。

悩みは会員の平均年齢が高く、60～70代前半の若い会員の入会に力を入れております。入会を勧めると、意外に「誰からも勧められたことがない」と聞きます。あなたの知人や身近な人、友人にぜひとも長寿会への入会を勧めて下さい。

会に新風を取り入れるため、役員たちも新しい後継者を見つけ、マンネリ化を防ぐことも、今現在の長たちの大事な務めかと思っております。形原長寿会が、常に新鮮で、活気ある会であることを望みます。